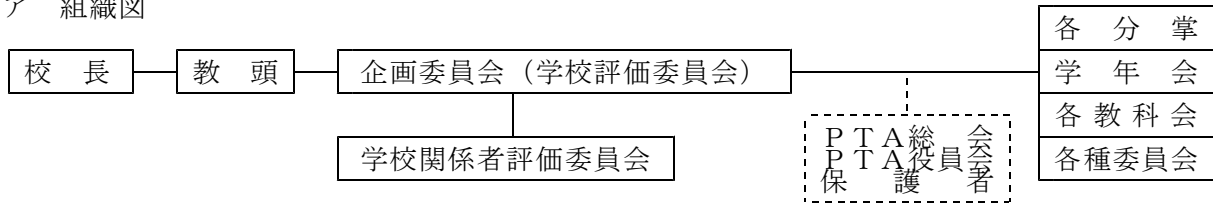


令和6年度全日制学校評価（目標）

(1) 学校評価のための組織

ア 組織図



(2) 学校評価の年間計画

- ア 年度末に当年度の学校評価について総合評価を行うとともに、次年度の課題や重点目標について立案する。
- イ 年度の中間期（10月）に、学校評価委員会で中間評価を行い、当年度の課題や重点目標の達成度について検討する。
- ウ 学校評価について、中間評価や総合評価をPTA役員会やPTA総会において保護者に説明する機会を設ける。
- エ 学校関係者評価委員会を年度末に実施

(3) 本年度の学校評価

本年度の重点目標	<p>ア 「スクール・ポリシー」の「目指す生徒像」を意識し、全ての教育活動をとおり、他者と関わる力を身につけさせ、生徒の主体性、自尊感情、他者と結び合う心を育てる。</p> <p>イ 「授業参観週間」「高校生のための学びの基礎診断」「牧高パワーアップアンケート」等の活用と教科会の有効的な運営を通して、小牧高校の教科としての指導力の向上を目指すとともに、一人一人の教員誰もが「よりよい授業」を目指す本校の職場文化の維持向上をめざす。</p> <p>ウ 新学習指導要領実施3年目に向け、各教科会での昨年度の振り返りを行いつつ、効果的な実践方法の研究を進めるための校内体制を確立し、教科として大学入学共通テストに向けての対策を行う。</p> <p>エ 作年度を創立100周年イヤーと位置づけ、生徒の活躍の場を増やしてきたことを基に、さらに地域への積極的な発信、地域への還元に取り組むことにより「残る高校」としての自覚を持ち、「小牧高校の良さ」の継続とさらなる発展を目指す。</p> <p>オ 教育活動の見直しや業務の精選とともに、スケジュールや書類の管理スキルなどの「個の力」を高めだけでなく、小牧高校としての「組織の力」を高め、多忙解消を推進する。また、困ったときに助け合える職場環境づくりに努める。</p>		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	留意事項
学習指導 （教務部） （各教科会） （各学年会）	授業に臨む態度の育成 （学校評価アンケートにおける「家庭で学習するように十分指導していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業準備の定着を図る。 ・チャイム後、すぐに授業を開始できるようにする。 ・授業ガイダンスを通して、学習の目的、授業の受け方、予習・復習の仕方について、しっかり説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会を柱に、教員間の連携を取り合って、授業規律を守らせる。 ・学習ガイダンスを通して、生徒に学び方をしっかり伝え、授業に対する取組、家庭学習に対する取組を前向きに実践させる。 ・体裁を整えるだけの作業ではなく基礎学力を定着させるために必要な学習を具体的に丁寧に説明し、実践させる。
	学習意欲の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業などの生徒の学力に応じた授業展開を工夫し、授業内容の理解度を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会、教科会と協力して生徒の家庭学習の実態を把握し、今後の指導に役立てていく。
	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な確認テストを実施し、生徒の理解度を把握する。 ・欠課過多生徒に対して効果的な学力補充の機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のレベルに応じた基礎学力を育成するための指導（中学校の学び直し、振り返りを含む）の仕方を、各教科会で検討する。 ・欠課補充について教科から指導を受けやすい形態を整える。

項目（担当）	具体的目標	具体的方策	留意事項
	<p>授業力の向上 （学校評価アンケートにおける「わかりやすい授業を心掛け、工夫をしていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観週間の活用、教科会における授業研究を通して、教師の授業力向上を図る。 ・牧高パワーアップアンケートの結果を分析し、授業改善に役立てる。 ・各教科と連携を図り、新教育課程を円滑に実施する。 ・ICTを効果的に利用した授業を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業力を高めていくための活動を、教科会や教科主任会が中心になって、進めていく。 ・牧高パワーアップアンケートを実施し、学年会、教科会で話題にすることによって改善策を見出し、各授業の担当者が授業改善に活かしていく。 ・様々な場面で新教育課程に則した教育活動を推進する。また、公開授業や授業参観週間などを利用して、他教科の授業に触れることで、教科横断的な授業実践のきっかけを図る。
<p>生徒指導 （生徒指導部） （各学年会）</p>	<p>基本的な生活習慣の確立</p> <p>情報モラル・情報リテラシーを高める指導の充実</p> <p>交通事故防止と交通（社会的）マナーの指導 （学校評価アンケートにおける「生徒が交通事故に逢わないよう十分指導している」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて80%を超える。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻・欠席の減少を目指す。安易な欠席、遅刻をさせない。 ・5分前行動の定着。 ・学期に1度の5分前登校強化週間の設定実施。（学年との連携） ・授業規律の確保や怠学の防止。（適応指導） ・携帯、スマートフォンの校内における使用規定を遵守させる。 ・情報モラルに関する講話やスマホPC使用ガイドライン7（啓発資料）を活用した指導を行う。 ・情報リテラシーを高める指導として、生徒自らが課題を解決するための情報を収集整理し、それを発信させる指導を行う。 ・登校時の自転車による事故防止教育 ・迷惑行為等のマナー教育 ・「学警連携」地域、警察との連携 ・ヘルメット着用の呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングマインドを持ち、生徒の多面的理解に努め、状況に応じた個別指導を行うことに留意する。 ・学年との連携を重視した指導体制を構築することに留意する ・安心して学べる教育環境の整備として、教務部と連携し、授業規律の確立にともなう指導体制を構築する。 ・規範意識向上のために、あらゆる指導の機会をとらえ、効果的な啓発指導に繋げる。 ・担任を中心に行われる保護者への連絡等の機会をとらえ、学校における生徒の多面的な情報提供とともに、家庭における状況理解に努める。 ・地域、警察との連携した指導の機会を設定する。 ・自転車点検時のヘルメットの所持確認
<p>進路指導 （進路指導部） （各教科会） （各学年会）</p>	<p>3年間を見通した進路指導の推進 （学校評価アンケートにおける「必要な進路情報を提供していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路希望状況・推移を十分に把握し、行事等の企画・運営に生かす。 ・教科・学年と情報を共有し、継続性のある指導を展開する。「学びの基礎診断」や模擬試験を有効活用する。 ・新カリキュラムに対応した大学入試等に対応した指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路ガイダンスや模擬授業、総合的な探究の時間等を機能的に実施・運営する。 ・外部講師や上級学校との連携を密にして、講演、ガイダンスや模擬授業を受けられる機会を設ける。 ・進路指導室および進路学習室の環境や各種進路資料・入試問題・掲示物の整備をさらに進め、その有効活用を図る。

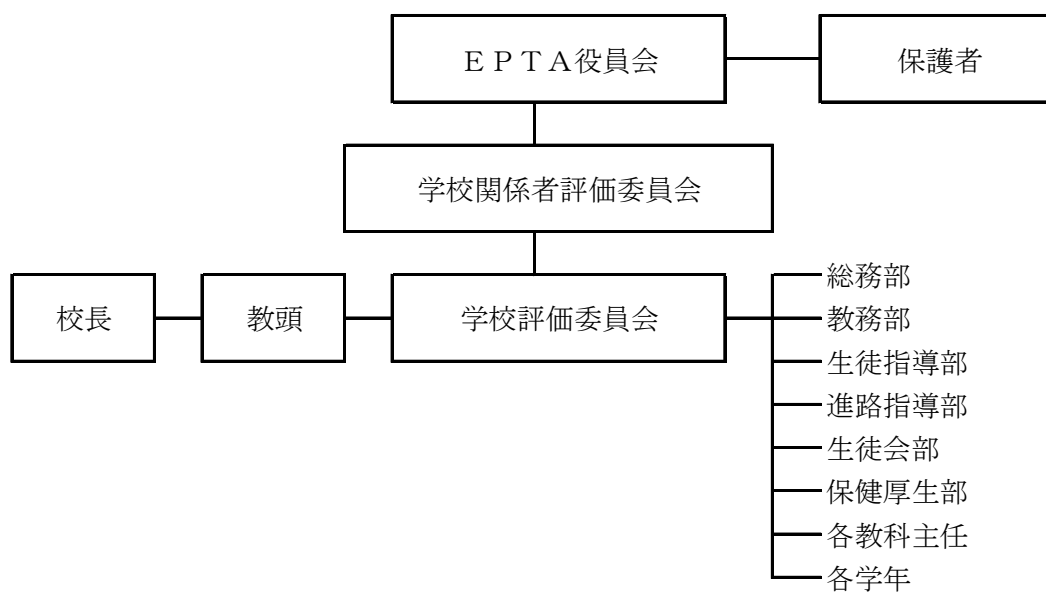
項目（担当）	具体的目標	具体的方策	留意事項
	生徒の進路希望実現に向けての必要十分なサポートの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・教科・学年に成績等のデータ・情報を提示し、進路指導・学習指導をサポートする。担任が個々の状況を把握する手段として、各種デジタルのサポートの適時の活用を促す。 ・入学試験や就職活動・試験に向けたきめの細かい指導を行う。面接や小論文についても、1年次からプロセスを踏んで指導するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科・学年団の協力を得ながら、補習や「学びの基礎診断」、模擬試験の計画的、効率的な企画・運営を行う。また結果を共有する機会を設けて、以後の指導の改善を図る。 ・生徒・保護者に対して時宜を得た適切な資料やデータを提供し、進路について自ら調べ考え判断する力を養う。
学校安全・保健 （生徒指導部） （保健厚生部） （総務部） （各教科）	健康や安全に対する意識の高揚と体力の向上を図る 主体的に健康行動が取れるよう保健教育の充実を図る （学校評価アンケートにおける「生徒の健康状態を把握するとともに、十分な相談活動を行っていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる機会を利用して、健康や安全について考えさせ、生命の大切さや安全のための実践的な能力を育成する。 ・保健だよりなどを通して健康に関する知識の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事のあり方をその都度見直し、安全・健康への意識を高め、命の大切さを自覚させるよう工夫する。 ・災害時への適切な対処法について、避難訓練・防災講話・L T等を通じて生徒の自覚を促す。またきずなネット等を利用して職員・生徒の安否確認訓練を実施する。 ・交通安全について様々な機会を利用して注意を喚起していく。
保護者連携 地域連携 （総務部）	家庭や地域社会との連携を図る （学校評価アンケートにおける「きずなネットでの欠席連絡、各種案内の配布等は便利だと思いますか。」に対する回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育方針に対する地域や保護者の理解と協力を求める。 ・学校のHPの更新を随時行い、情報発信に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者、地域住民や健全育成の団体等と連携を密にし、関係部署とも連絡を取りながら、きずなネット・HPを活用し、情報発信に努める。 ・各月の月間行事予定を配布して周知に努め、保護者の積極的な行事参加を促す。
学校行事 （生徒会）	学校祭の充実を図る （学校評価アンケートにおける「生徒が牧高祭に意欲的に取り組めるよう努力していると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）	<ul style="list-style-type: none"> ・各種委員会等を活用して、生徒の要望・意見を吸い上げることに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭では、縦割り群団制を導入し、縦・横の人間関係の絆の大切さを学べる機会を増やしていく。 ・文化祭では、クラスでの検討、企画、立案の時間を確保し、全員が参加し、学級・学校への帰属意識を高められるようにする。
図書館利用 （図書部）	図書館利用の充実を図る （学校評価アンケートにおける「魅力ある図書室作りに努めるとともに、十分な広報活動を行っていると思うか」の回答が、「思う」「少し思う」合わせて70%を越える。）	<ul style="list-style-type: none"> ・図書だよりやHPを活用し、図書館行事の紹介や新着図書一覧の作成など情報発信に努める。 ・オリエンテーションや読書指導の時間を設定し、図書に親しむ機会を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書離れが深刻になってきている昨今、読書の楽しさ・大切さを学べる貴重な機会として、図書館行事等を充実させていく。 ・生徒が読みたい本、生徒に読んでもらいたい本を中心に、各分野バランスのとれた蔵書を目指す。

項目（担当）	具体的目標	具体的方策	留意事項
いじめ・不登校対策委員会	いじめの未然防止に係わる取り組みの充実 いじめの早期発見、適切な事案対処	<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や学年集会、ホームルーム活動において、いじめ防止をテーマとした活動を取り組み、生徒がいじめ問題を主体的に考える機会を設ける。 ・「学校生活に関するアンケート」（年2回実施）の実施方法や、その後の対処の在り方について検証し、いじめの早期発見、迅速な対応に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートを年2回実施。その後の追跡調査においても各学年や部顧問等の迅速な対応（面談や指導）により、細かく対応がなされ、早期対応に繋げる。 ・面接週間だけでなく、普段からの声かけにより、生徒の些細なサインを見逃さない目配りをする。特別支援教育委員会と連携を密に、早期対応できる体制づくりを目指す。
教職員の健康管理	勤務時間の適正管理及び長時間労働による健康障害防止	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の在校時間状況記録の結果の活用 ・ストレスチェックの結果の有効的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・面談や日常における職員の様子に気を配り、情報共有を密にして、メンタルヘルスの保持に努める。
学校関係者評価を実施する主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ・「スクール・ポリシー」を意識した他者と関わる力を持つ人材の育成 ・誰もが「よりよい授業」を目指す職場文化の維持向上 ・新学習指導要領実施に伴う効果的な実践と研究を進める校内体制の確立 ・「残る高校」としての自覚と小牧高校の良さの継続と発展を目指し、100周年を受けた地域への積極的な発信と還元継続、 ・小牧高校としての組織の力を高めた多忙化解消と助け合える職場環境づくり 		

学校評価（定時制 令和6年度）

(1) 学校評価のための組織

ア 組織図



(2) 学校評価の年間計画

4月	学校評価委員会において重点目標と具体的取組の設定
5月	EPTA総会にて学校評価の説明と外部評価の依頼
10月	前半の取組状況と改善策を自己評価
11月	これまでの取組状況と改善策
12月	保護者会にて外部評価の実施
1月	年度末評価
2月末	学校関係者評価委員会及びEPTA役員会に向けての評価結果のまとめ
3月	学校評価委員会報告及び評価のまとめと来年度の重点目標の設定

(3) 本年度の学校評価

<p>本年度の重点目標</p>	<p>(1) 「スクール・ポリシー」の「目指す生徒像」を意識し、あらゆる教育活動をととし、他者と関わる力を身に付けさせ、生徒の主体性、自尊感情、他者と結びつき合う心を育てる。 (2) 「授業参観選開」を有効的に活用し、お互いの授業に関心を寄せ、教科の枠を超えて積極的に授業を見学し合うなど、「よりよい授業」を探究する職場文化を維持向上を目指す。 (3) 教科書採択の討議をはじめ新学習指導要領実施3年目に向け趣旨の理解を深めるとともに、校内研究体制を確立する。 (4) 高校卒業資格の授与にとどまることなく、キャリア教育計画に基づいた就労支援・進学支援によって、定時制課程に対する地域からの期待に応える。 (5) 教育活動の見直しや業務の精選とともに、スケジュールや書類の管理スキルなどの「個の力」を高めるだけでなく、小牧高校としての「組織の力」を高め、多忙化解消を推進する。また、困ったときに助け合える職場環境づくりに努める。</p>		
項目	具体的目標	具体的方策	留意事項
<p>学習指導 (教務部) (各教科)</p>	<p>多様な生徒への対応と授業の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒への対応の充実 ・外国人生徒対応の一層の充実 ・基礎学力が不足した生徒への対応の充実 ・授業研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・SC、担任、保護者との連絡をこまめに行う。 ・外国人生徒教育支援員と連携をはかり個々の言語力に応じた指導を工夫する。 ・授業以外にも学びの機会を提供する等、個々の能力に応じた対応を工夫する。 ・お互いの授業を参観するなど授業力向上の機会を設定する。
	<p>日本語教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設定教科を通して生徒の日本語力向上に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語担当教師、日本語教育支援員との情報交換を密にし、適切な運営計画について検討し、改善をはかる。
	<p>特別活動等「在り方生き方教育」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間への対応など、具体的な指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語力の向上だけでなく日本社会で活躍するために、日本の文化や習慣についても学習する機会とする。
<p>生徒指導 (生徒指導部)</p>	<p>基本的な生活習慣の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者、早退者への指導の充実 ・欠課過多者への指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻、早退の生徒に対しては、担任を中心に全職員で指導し、安易な遅刻、早退を減らすことができた。 ・欠課過多者に対しては、家庭への連絡を密にし、保護者にも協力をしていた。
	<p>生徒情報の精選と共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的情報交換会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒情報は、全職員で共有し、迅速な対応ができた。
	<p>交通安全指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講話の実施 ・下校指導の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講話などを通じて、交通ルールやマナーなどの指導したことで、昨年度よりも交通事故数を減らすことができた。 ・警察などの外部機関と連携し、近隣で交通事故が発生しやすい場所などの情報を収集し、生徒に周知した。
	<p>いじめに対する措置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止講話の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な探究の時間を活用して、計画的に実施した。
<p>進路指導 (進路指導部)</p>	<p>進路意識の向上及び進路学習の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会 ・面接指導の実施 ・進路情報の提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外でのボランティア活動についての講演会を聴くことで、生徒の視野を広げるとともに、キャリアを形成する上での刺激を与え、個々のキャリア発達に役立てることができた。今後も適切な外部講師がいれば、積極的に講演会を実施していきたい。 ・今年度は、専門学校体験講座を実施して、それぞれの学びや資格について、外部講師から直接の情報提供と指導を受けて、生徒個々が興味や適性について考える機会を提供することができた。次年度以降は、各進路別に卒業生から直接の体験談を聴くような場を設けたいと考えている。 ・就職、進学それぞれにおいて、4年生担任と手分けをして面談を継続的にし、約8割の生徒が卒業後の進路を決めることができた。残る未決定者については個々の事情は異なるが、次年度に向けてより効果的な方法やアプローチをこれからも模索していきたい。
<p>保健指導 (保健厚生部)</p>	<p>健康の増進及び相談活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断の円滑な実施と治療勧告 ・SCの効率的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期の保護者会で、保護者への健康診断結果を通知することができた。通知できたことにより、治療報告などがスムーズに行えた。 ・生徒が抱える問題への対応や具体的な対策のアドバイスを受けることができ、生徒指導面で効果的であった。また、昨年同様外部機関との連携方策など、外部機関との連携が不可欠な事案も増えてきているので今後も、研究を進めたい。
	<p>環境教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・節電、省エネを通じた環境意識の高揚 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCや栄養士の講話や、総合における講話を通じて、環境意識を高められた。
<p>教職員の健康管理</p>	<p>健康障害防止の取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の管理 ・年次休暇取得推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務管理簿や割り振りを活用できた。 ・年次休暇の取得推進を図ることができた。
<p>学校関係者評価を実施する主な評価項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールポリシーで掲げた目指す人間像を念頭に置いた人材の育成 ・教科の枠を超えて「よい授業」を探究する職場文化の維持 ・新学習指導要領の実施における研究 ・本校に期待されている、地域の教育ニーズを意識した発信と還元 ・働きやすく、働き甲斐のある職場づくり 		